

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎



8月の銅の概況及び9月の見通し (3)

【住宅着工戸数】

令和元年7月の住宅着工戸数は7万9,232戸で、前年同月比で4.1%減となった。また、季節調整済年率換算値では91.0万戸(前月比1.3%減)となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で先月の増加から再びの減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家及び分譲住宅は増、貸家は減となった。

引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比-7.5%の6万6,937tで8か月連続減少。

内需よりも海外輸出向けの減少率が大い。また、伸銅品の14品種のうち、前年同月比プラスは、前月の2品種から5品種に増えた。

銅条は2万2,808t、-0.9%、6か月連続マイナス。

黄銅棒は1万5,220t-0.1%、7か月連続マイナス。

(注意)

日本伸銅協会は、今回の7月報告分より、これまで内需と輸出をわけて報告していた伸銅品の生産量を、内需と輸出を合計した生産量のみに表示を変更した。内需と輸出は、出荷の確定量のみを報告。記事中の内需と輸出についてのコメントは、日本伸銅協会からの報告時のものを取り扱っている。

【電線】

前年比+8.1%の6万4,300t。

うち国内が+9.6%、輸出が-34.8%。

【輸出】

電気銅輸出が+5.2%の4万8,726t。

銅スクラップが-14.1%の2万1,871t。

【輸入】

電気銅が-76.8%の801t。

スクラップが-0.3%の1万2,766t。

【見通し】

自動車は生産が-1.5%。国内販売台数が前年比+4%。生産は再びマイナス。

生産はマイナスだが、販売はプラス。今後注視。

伸銅品生産は前年比-7.5%の6万6,937t。8か月連続減少。更にマイナスが続くか注視。

【電線】

前年比+8.1%の6万4,300t。

うち国内が+9.6%、輸出が-34.8%。

【銅輸出入】

銅輸出は、電気銅が割安感から増加したが、スクラップは用途の低迷から減少。

銅輸入は内需低迷から減少。

【スクラップ景況予想】

前月同様に流通在庫はここ最近の相場下落(5万円)から塩漬玉があり、銅建値が70万程度になれば市中でてるのではないかと。

需要面に関しては足元の生産状況が徐々に悪化しており減少。

米中貿易戦争から不透明感が強くメーカーの購入意欲は低く、スクラップ販売は当面厳しい。

【LME・為替予想】

今月は米中貿易戦争の動向、香港デモの動向に左右される。

米中貿易に関しては、9月に米国との通商協議実施で調整と表明したが条件面で両者が折り合えらることは考えにくくまだまだ悪化するのでは？

香港デモに関しては逃亡犯条例改正案の撤回を認めた中国政府だが、反対派が掲げる「五大要求」のうち、残る四つに習近平指導部が応じる可能性は低い。

これらを踏まえた7月の銅価格は5,600-5,800ドル(セツル)との予想。

ドル円値は105円~107円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては630-660円程度と予測している。

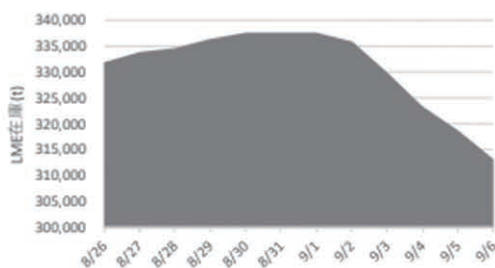
【「8月の銅の概況及び9月の見通し」終了】



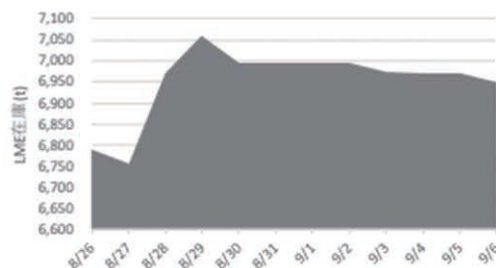
LME認定倉庫在庫量推移

8月26日~9月6日(現地)

銅



錫



日刊金属

外電配信料
(税別)

6ヵ月: 42,000円

12ヵ月: 84,000円